

SALES DATA PROCESSING DEVICE

I 3

Patent Number: JP2278399
Publication date: 1990-11-14
Inventor(s): KONDO KAZUHIKO
Applicant(s): CASIO COMPUT CO LTD

Requested Patent: JP2278399

Application Number: JP19890098761 19890420

Priority Number(s):

IPC Classification: G07G1/12

EC Classification:

Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To easily express an intention for contribution by a sales data processing device, and to realize the automatic processing of the contribution by inputting money on deposit as following the account closing instruction of each one transaction portion, and summing-up and storing a fraction below the limit amount of the contribution out of calculated change as the amount of the contribution every time the amount of change is calculated.



CONSTITUTION: It is assumed that in response to account closing operation for transaction, 774 yen is calculated as the total amount sold of this transaction, and since 1,000 yen is inputted as the money on deposit, 226 yen is calculated as the amount of change. A storage controlling means (c) makes '6 yen' below '10 yen' the limit amount of the contribution set by a setting means (a) out of the amount of change '226 yen' the amount of the contribution, and adds it to the total amount of the contribution till then in a storing means (b). Besides, an outputting means (d) outputs contribution information in the storing means (a). Thus, the intention for the contribution can be easily expressed by the sales data processing device, and in addition, the processing related to the contribution can be processed automatically according to this intention expression.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

TOP

⑪ 公開特許公報 (A)

平2-278399

⑫ Int. CL³

G 07 G 1/12

識別記号 庁内整理番号
361 Z 8610-3E

⑬ 公開 平成2年(1990)11月14日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑭ 発明の名称 売上データ処理装置

⑮ 特 願 平1-98761

⑯ 出 願 平1(1989)4月20日

⑰ 発 明 者 近 藤 和 彦 東京都西多摩郡羽村町栄町3丁目2番1号 カシオ計算機
株式会社羽村技術センター内

⑱ 出 願 人 カシオ計算機株式会社 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

⑲ 代 理 人 弁理士 町田 俊正

明細書

と、

を備えたことを特徴とする売上データ処理装置。

1. 発明の名称

売上データ処理装置

2. 特許請求の範囲

売上データを電子的に登録処理する売上データ
処理装置において、

希望する募金限度額を任意に設定する設定手段
と、

少なくとも募金累計金額を含む募金情報を記憶
する記憶手段と、

各一取引き分の登録処理の締め指示に伴って預
り金額が入力され、当該預り金額から当該一取引
分の売上合計金額を減算して釣銭額が算出され
る毎に、算出された釣銭額のうち、上記設定手段
にて設定された募金限度額未満の端数を、募金額
として上記記憶手段に複次累計記憶させる記憶削
除手段と、

上記記憶手段内の募金情報を出力する出力手段

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この発明は、電子レジスタ、POSシステム等
の売上データ処理装置に関するもの。

〔従来の技術〕

小売店等で食料品等の低価格商品を販売する
場合、これら低価格商品に関しては、自ずから、
例えば98円等、小さい単位で単価を設定してい
る。このような場合、顧客は、100円、500
円等の貨幣により精算を要することが多く、店
舗側にとっては、2円等の少額の釣銭に備えて、
1円硬貨、5円硬貨等の少額の硬貨を多数用意し
ておく必要があった。

一方、顧客側にとっては、少額硬貨は1個当た
りの金額が少額であり、纏めた金額にするには
多数の少額硬貨が必要となり、持ち歩くのに不便

種の登録処理を行うものであり、CPU1には、キー入力部2、ROM3、RAM4、表示部5、印字部6、客側入力部7、客側表示部8、募金印字部9、及びドロア10が接続されている。なお、客側入力部7、及び客側表示部8は、顧客側に向けて配設されている。

CPU1は、キー入力部2から入力された売上データを、ROM3にプリセットされたプログラムに従って各種処理し、その処理結果をRAM4に格納、表示部5に表示、印字部6にて印字する等の一連の売上データ登録処理を制御する。

また、CPU1は、客側入力部7、客側表示部8、募金印字部9等を活用して、募金に関する所定の処理を行う。

キー入力部2は、登録(R)、電源OFF、点検(X)、精算(Z)の各モードを切替設定するモード切替スイッチSW、売上個数等を置数入力する直敷キー-2a、部門を入力するための部門キー-2bの他に、一取引分の小計を算出し出力するよう指示する小計キー-2c、一取引の締め処理、

ドロア10を解放するよう指示する現金／預り金-2d等のファンクションキーを有している。

RAM4には、部門別に売上合計個数、売上合計金額等を累計記憶する部門別メモリM1、一取引きの小計額を格納する小計メモリM2、一取引きの釣銭額を格納する釣銭メモリM3、当月分の募金額を累計記憶したり、先月分の募金合計額等の募金報告情報を記憶する募金メモリM4が形成されている。

客側入力部7は、液晶表示パネル上に複数の透明タッチキーが配設された構成となっており、第3図に示したように、この透明タッチキーのうち幾つかは、所望する募金限度額を顧客が任意に設定するための募金キー-7Aとして、5円未満キー-7A1、10円未満キー-7A2、50円未満キー-7A3、100円未満キー-7A4、500円未満キー-7A5、或いは、これら各キーによる設定を取り消すための取消キー-7B、及び自己の募金額を印字した募金レシートを要求するための募金レシート要求キー-7Cとして活用される。また、液晶

表示パネルには、図示したようなガイダンス情報が表示される。なお、上記募金キー-7Aのいずれかが操作されたときは、或いは募金レシート要求キー-7Cが操作されたときは、各々、CPU1内の募金フラグF1、募金レシートフラグF2がオンされる。また、募金フラグF1は、3ビットで構成され、5円未満キー-7A1、10円未満キー-7A2、50円未満キー-7A3、100円未満キー-7A4、500円未満キー-7A5が操作されたときは、募金フラグF1には、各々、“1”、“2”、“3”、“4”、“5”がセットされる。

客側表示部8には、第4図に示したような募金報告情報が表示される。なお、第4図に示した趣は、募金目標に対する現在の募金額を視覚的に示し、募金を促進するために表示されている。

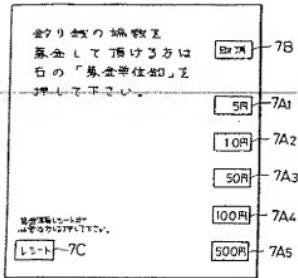
募金印字部9では、募金レシート要求キー-7Cの操作により、募金レシートが要求された場合、その顧客の募金額をレシート印字する。

この募金額としては、CPU1の制御の下に、釣銭額のうち、操作に係る募金キー-7Aに応じた

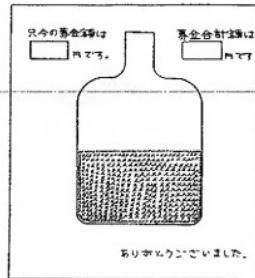
金額未満の端数が計上される。

次に、実施例の動作を第5図を参照しながら説明する。

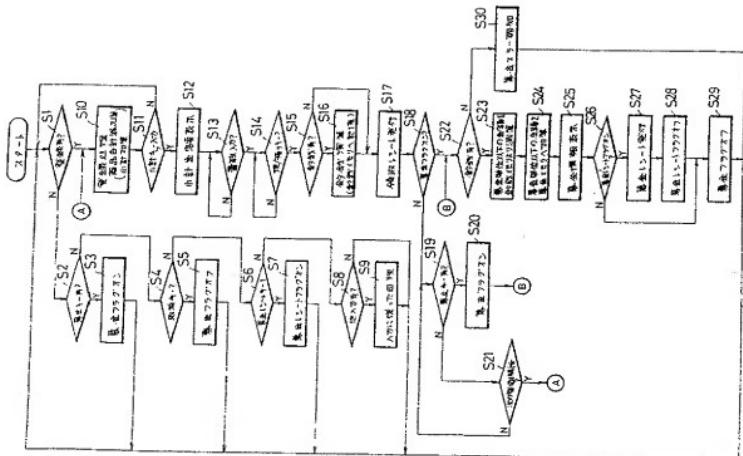
登録モードが設定されると、CPU1は、先ず、売上データの入力の有無を判断する(ステップS1)。その結果、売上データの入力が無ければ、募金キー-7Aの操作の有無を判断する(ステップS2)。募金キー-7Aの操作が有れば、ステップS3にて、操作された募金キー-7Aに応じた値を募金フラグF1にセット(募金フラグF1をオン)して、ステップS1に戻る。一方、募金キー-7Aの操作が無ければ、取消キー-7Bの操作の有無を判断し(ステップS4)、取消キー-7Bの操作が有れば、セット中の募金フラグF1をリセットし(ステップS5)、ステップS1に戻る。取消キー-7Bの操作も無いときは、募金レシート要求キー-7Cの操作の有無を判断し(ステップS6)、その操作があれば、募金レシートフラグF2をオンして(ステップS7)、ステップS1に戻る。募金レシート要求キー-7Cの操作も無いときは、



第 3 図



第 4 図



第 5 図